

Manual ■ もみじ

「もみじ」は小学校の教科書に掲載されている合唱曲です。前半部分は2声による1小節遅れのカノンになっています。後半部分は、カノンから発展して和声的な響きによる合唱になっています。つまり、この曲は合唱を進めていく上で重要となるステップが盛り込まれているのです。前半部分と後半部分の特徴をよくつかんで練習するようにしましょう。また、歌詞の内容から情景を思い浮かべながら豊かに歌えるようにしましょう。

Step 1

前半 上声部

【のびのび歌おう】

- ・旋律の動きを感じながらのびやかに歌う。

Step 2

前半 下声部

【メロディーとの違いを意識して歌おう】

- ・旋律の動きを感じながらのびやかに歌う。
- ・最後2小節の上声部と違う箇所注意到意して歌う。

Step 3

前半 両声部

【カノンを意識して歌おう】

- ・言葉をはっきり発音する。
- ・最後の「ファ」で同じ音になるよう意識して歌う。

Step 4

後半 上声部

【広がりをもって豊かに歌おう】

- ・特に前半部分は広がりを感じて歌う。
- ・最後はピッチが下がらないように丁寧に歌う。

Step 5

後半 下声部

【広がりをもって豊かに歌おう】

- ・特に後半部分は旋律の動きを大切に歌う。
- ・最後はピッチが下がらないように丁寧に歌う。

Step 6

後半 両声部

【声部の役割を意識して歌おう】

- ・上下のメロディーを重ねることによって生まれるハーモニーを意識して歌う。

Step 7

1番を通して

【パートどうしの関わりを意識してのびやかに歌おう】

- ・パートの役割と関わりを意識してのびのびと声を出して歌う。

- ★ 歌詞の内容から情景を思い浮かべて歌いましょう。
- ★ うまくいかないときは前半と後半にわけて練習しましょう。
- ★ ピアノの伴奏をつける前に、歌だけでハーモニーをよく聴く練習をしましょう。
- ★ レガート（なめらか）に歌うことを心がけましょう。レガートに歌うことで、より一層情景が思い浮かぶような表現ができます。

もみじ

文部省唱歌
作詞 高野辰之
作曲 岡野貞一
編曲 中野義見

♩ = 92

1.あきのゆがひれに てりーやまくもみーじ
2.たにのながひれに ちりーうくもみーじ

1.あきのゆがひれに てりーやまく
2.たにのながひれに ちりーうく

5

こな いも うす ら い れ も て か ずーあ る な か に て
こ な いも うす ら い れ も て か は なーれ て な よ ーつ て

も みーじ こ な いも うす ら い れ も て か ずな あ る な か に て
も みーじ こ な いも うす ら い れ も て は な あ れ て よ っ て

9

ま つを い る ど る の か い えーで やー つ た は に
ま あ か や き ら い ど る の か い るーさ やまー つぎ た ま は に

ま あ か や き ら い ど る の か い えーで やまー つぎ た ま は に

13

や まの ふ も と の も す そーも よ う き
や み ずの う え に の も す お るーに よ し う き

や み ーまのー ふ も と の も す お そーも よ う き
や み ーずのー う え に の も す お るーに よ し う き

この楽譜は、教育芸術社『小学生の音楽 4』から抜粋しました。

楽典

■ 音程 2つの音高のへだたり(距離)を音程といい、数字と度であらわします。



1度 2度 3度 4度 5度 6度 7度 8度

同じ度数でも、2つの音に含まれる半音の数によって響きは異なり、それぞれ長・短・完全・増・減と呼ばれる種類に分けられます。

完全1度			
短2度		長2度	
短3度		長3度	
完全4度		増4度	
減5度		完全5度	
短6度		長6度	
短7度		長7度	
完全8度			

音程を構成する 2 つの音が、よく調和して響くものを「協和音程」といい、濁った響きに聞こえる音程を「不協和音程」といいます。また、「協和音程」は調和の度合いによって、さらに「完全協和音程」と「不完全協和音程」に分けられます。

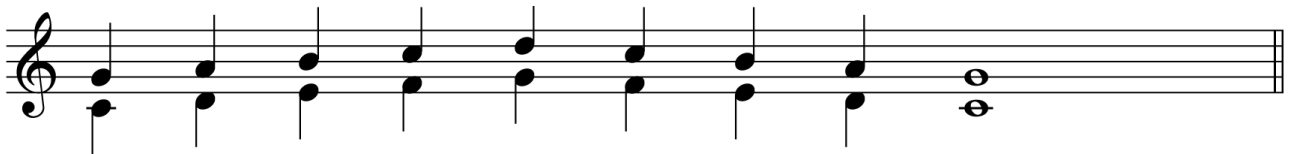
【協和音程】 … [完全協和音程] 完全 1, 4, 5, 8 度 / [不完全協和音程] 長短 3, 6 度
【不協和音程】 … 長短 2, 7 度、増 4 度、減 5 度

■ 平行と反行

平行

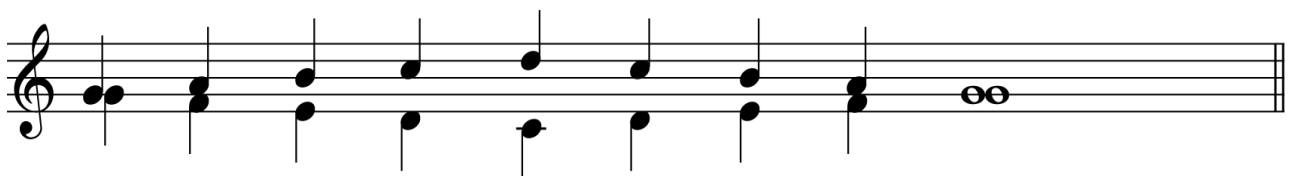
2 つの声部がたがいに同じ方向に動くことをいいます。

また、常に同じ音程間隔を保ちながら進行する場合も平行といい、以下のように常に 5 度音程で進行することを平行 5 度、あるいは連続 5 度といいます。



反行

2 つの声部がたがいに反対の方向に動くことをいいます。



音楽用語

- ユニゾン： 同度の音、あるいは同度の旋律を1声部あるいは数声部と一緒に演奏すること。しかし、女声と男声のように実音がオクターヴ離れているような場合にもいう。合唱の練習ではこの同度の練習は基礎的に大切である。より正確な同度の音高を必要とするのはもちろん、各音の音色の統一がなければ、人声の美しい和声は得られない。
- カノン： 厳格な模倣様式による多声楽曲の形式および技法。ある1声部の旋律を他の声部が忠実に模倣し、共に進行していくもの。2声カノン、3声カノンや2重カノン、同度カノン、2度カノン・・・など、声部の数や音程関係など様々な見地から分類されている。
- ピッチ： 音高（音の高さ）
- オスティナート： ある一定の音型を、楽曲全体を通じて、あるいはまとまった楽節全体を通じて、同一声部で、同一音高で、たえずくり返すことをいう。オスティナートは、しばしばバスにあらわれ、それはとくに〈basso ostinato〉〈ground〉と呼ばれる。しかし他の声部に現れることもある。
- オブリガート： 助奏。とくに、ひとつの歌声と協奏する声部のことであり、独唱（奏）に加えて演奏される伴奏以外のパートを指す。もとは、楽曲に不可欠で省略できない声部のことであり、アド・リビトゥム（ad lib.）の対語である。
- 不協和音程： 2音が協和しない音程。振動数比が複雑で、同時に鳴ると濁った響きを生む。
- トーンクラスター： 2度以内の音程で密集した音の塊のこと。調的な機能を持っていない点で、和音とは区別される。20世紀後半におけるもっとも重要な技法のひとつ。
- オルガナム： 9世紀から13世紀のヨーロッパで行われた合唱の技法であり、初期の多声楽曲のこと。ひとつの旋律に対し、常に4度・5度音程をなす声部を加えて歌うもの。初期は2声の合唱であったが、発展するにつれて声部も増え、1度・4度・5度・8度の完全音程を中心に、3度・6度なども使用された。平行オルガナム、反行オルガナム、自由オルガナムなどがある。

[出典]

- ・目黒惇編(1983)『新訂合唱事典』音楽之友社
- ・浅香淳編(1991)『新訂標準音楽辞典』音楽之友社
- ・柴田南雄、遠山一行総監修(1996)『ニューグローブ世界音楽大事典』講談社
- ・金澤正剛監修(2004)『新編音楽小辞典』音楽之友社
- ・小西友七、南出康世編集主幹(2006)『ジーニアス英和辞典』第4版 大修館書店

参考文献

- ・フォライ・カタリン，セーニ・エルジェーベト共著(1975)『コダーイ・システムとは何か』
羽仁協子，谷本一之，中川弘一郎共訳 全音楽譜出版社
- ・カルドシュ・パール(1994)『合唱の育成・合唱の響き』
羽仁協子監修，菅原恵利訳 全音楽譜出版社